



令和元年6月19日
国土交通省国土地理院
九州地方測量部

災害の教訓を地図で伝える －地図記号「自然災害伝承碑」を地理院地図で公開－

国土地理院では、「自然災害伝承碑※」の情報を、ウェブ地図「地理院地図」で6月19日から公開を始めました。本取組を通じて、地域住民の方に地域ごとに発生しやすい自然災害を現実のものとして感じていただき「災害への『備え』」を支援してまいります。

※自然災害伝承碑：過去に起きた、津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害の情報を伝える石碑やモニュメント

- 3月15日の「地図で確認・先人が伝える災害の教訓」でお知らせした通り、国土地理院では、2019年度から自然災害伝承碑の情報を地方公共団体と連携して、地方整備局等の協力も得つつ収集を開始し、現在約200市区町村と公開に向け準備を進めています。
- そのうち九州地方測量部管内では、12市町の39基（6月17日現在、全国では48市区町村・158基）の自然災害伝承碑の公開準備が整いましたので、これらの情報をウェブ地図「地理院地図」で6月19日から公開しました。
- 引き続き市町村に対して自然災害伝承碑の情報提供を呼びかけるとともに、地方公共団体等と連携して、自然災害伝承碑の情報を定期的に更新します。
- 本取組を通じて地域住民のみなさんに過去の教訓からお住まいの地域ごとに発生しやすい自然災害を現実のものとして感じて、災害のリスクに備えていただきたいと思います。



自然災害伝承碑
(鹿児島県鹿児島市城山町)



地理院地図における表示イメージ

概要	
碑名	櫻島爆発記念碑（照国）
災害名	大正噴火 （1914年1月12日）
災害種別	火山災害
建立年	1916
所在地	鹿児島市城山町1-1
伝承内容	1914（大正3）年桜島が大爆発した。前日から前兆があったため子供と老人を避難させた。家屋倒壊やけがけ崩れなどで62名が死亡した。毒ガスや津波のデマが流れた。田畑は火山灰で埋まり溶岩は村を埋め海峽を塞いだ。過去と比較し変化を捉えることができれば被害軽減できるのではないかと、何百年か後の噴火の時のために今回の概況を記して永久に伝える。将来の修繕を軽減するために役立ってほしいと願う。

【添付資料】

- 資料1 地理院地図における「自然災害伝承碑」の表示イメージ
- 資料2 「自然災害伝承碑」の代表事例
- 資料3 「自然災害伝承碑」の活用事例

自然災害伝承碑の詳しい情報につきましては、以下のウェブサイトをご覧ください。

○「自然災害伝承碑」の取組

<http://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>

（問い合わせ先）

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2-11-1 福岡合同庁舎
国土交通省国土地理院 九州地方測量部

次 長 山本 宏章 (TEL 092-411-7902)
測量課長 小室 勝也 (TEL 092-411-7910)

国土地理院では、本年6月19日から「地理院地図」において、全国各地に建立されている自然災害伝承碑に関する情報（位置や伝承内容など）を公開しました。

情報リスト

例：写真/標高/災害

☐ OFF 表示範囲に絞込み

トップ

- ベースマップ
- 空中写真・衛星画像
- 起伏を示した地図
- 土地の特徴を示した地図
- 地図の更新情報や提供地域等
- 基準点・測地観測
- 地震、台風・豪雨等、火山
- 指定緊急避難場所
- 自然災害伝承碑**
- 南極の地理空間情報
- 地理教育の道
- 他機関の情報
- ベクトルタイル提供実験

新たに追加

アイコンをクリックすると
碑名や災害名が表示

水害復旧記念之碑
災害名： 西日本水害
(1953年)



詳細説明は画像をクリック

水害復旧記念之碑

概要	
碑名	水害復旧記念之碑
災害名	西日本水害 (1953年)
災害種別	洪水
建立年	1959
所在地	佐賀県鳥栖市酒井東町
伝承内容	昭和28年(1953)年6月25日より4日間にわたる大豪雨のため、宝満川秋光川大木川が氾濫したことによる被害の状況を記している。また、碑には当時の水位を刻んでいる。

ID:41203-001

さらに写真をクリックすると
伝承内容や拡大写真が表示

※自然災害伝承碑を示すアイコン



地理院地図HP
(自然災害伝承碑を表示)



津波

(長崎県島原市)



寛政4年(1792)、島原大變の大津波による溺死体が多く打ち上げられた。

津波

(長崎県島原市)



寛政4年(1792)、地震により眉山が大崩壊し有明海に崩れ落ち大津波が発生した。島原側10184人、対岸の熊本側でも4997人溺死した。

土砂災害

(鹿児島県日置市)



平成5年9月20日、日吉町昆沙門地区で、幅約100mの斜面崩壊が発生、人家や住民を巻き込み二名が死亡するという、地すべり災害が起こった。国内において流失土砂量・範囲が最大級の地すべり災害となった。

土砂災害

(鹿児島県南さつま市)



平成5年(1993)9月3日、鹿児島を襲った超大型台風13号の風水害により甚大な損害を被りました。扇山地区では20名、白川地区では1名の人命が奪われました。

地震

(福岡県福岡市)



平成17年(2005)3月20日、福岡市玄界灘を震源とするマグニチュード7.0、震度6弱の地震により、道路が崖崩れなどにより通行止めになり、家屋被害も発生した。

地震

(佐賀県鳥栖市)



平成17年(2005)年3月20日午前10時53分頃、福岡県西方沖を震源とするM7.0の地震が発生した。鳥栖市では震度5強を観測し鳥居が倒壊したが、悲惨な事故等がなかったことが唯一の救いであった。

火山災害

(鹿児島県鹿児島市)



烏島は高さ約20メートル周囲約500メートルの、玄武岩質岩石の島であった。1914(大正3)年1月13日、桜島西腹から流出した溶岩は18日にこの島を埋没させた。ここに碑を建ててその跡を示す。

火山災害

(長崎県島原市)



1990年雲仙普賢岳の噴火が始まり1991年6月3日発生した大火砕流により消防団員12名を含む43人の命が奪われた。

洪水

(大分県別府市)



享保14年(1729)9月13日のげいし風や洪水のため、別府村と南石垣村と境した人衆が20戸余りも潰れ、大境村の男女の溺死が21人も出た。

洪水

(福岡県朝倉市)



昭和28年6月25日からの豪雨により未曾有の大洪水が発生した。床上浸水は勿論、二階に浸水の家も多数であった。土地改良及び水害復旧工事に労役8870人を要した。

洪水

(鹿児島県出水市)



平成18年7月18日から23日にかけての豪雨により、出水市では米之津川の春日橋や広瀬橋付近で二度にわたり氾濫、甚大な浸水被害が発生し、貴重な財産を失う大災害となった。

「自然災害伝承碑」の活用事例

- 土地の成り立ちと、先人が伝えてくれた災害履歴を
組み合わせ地理院地図で提供

→災害を現実としてイメージ可能に

災害履歴情報



自然災害伝承碑

組み合わせ

土地の成り立ち



地形分類

昭和二十八年水害記念碑



昭和28年（1953）6月の筑後川氾濫による水位は、この災害碑の頂部にまで達した。その惨状を伝えるため、西日本水害から30年後に建立されたもの。

福岡県久留米市

自然堤防
(大規模な洪水で浸水のリスク)

氾濫平野
(浸水・液状化
のリスク)

土地の成り立ちと、災害履歴情報を「地理院地図」上で重ね合わせ

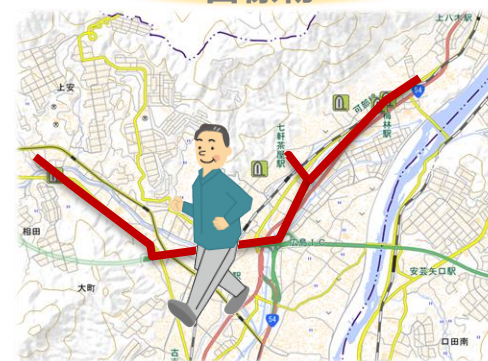
学校における 学習教材



身近な災害履歴を学ぶための学習教材として、
小中学校で活用できる。

地理教育や防災教育
への貢献

地域探訪の 目標物



地域を探訪する際の目標物となり、自然と過去の
災害情報に触れる機会を創出できる。

防災に対する関心を
高めるきっかけ